

産経新聞 2021年4月26日 「ひこばえ倶楽部」への投稿掲載

(令和2年度入学) 高校2年(六か年コース) I組 安西 聖我君

鉄道利用者の一人である。特別詳しいわけではないが、毎日使っていると自然に好きになるものだ。

鉄道の醍醐味、それは景色である。日によって微妙に変わる景色が「乗る楽しみ」を教えてくれる。踏切の風景は、混沌とした人々の様子と自動車の秩序ある並びのコントラストが見どころの一つだ。

この景色も毎日少しずつ違う。雨の日にはかっぱや傘が彩りを添え、そうした違いを見つけるのも日々の景色を楽しむコツである。

もちろん、景色だけではない。異性との出会いはかなりの確率である。やはり毎朝、同じ電車の車両に乗っていると、お互いを意識してしまうことがある。

こんなにも鉄道には素晴らしいことが多いが、ほとんどの人は車内で寝ているか、ゲームなどを行っている。非常にもったいない。

もっとも用途は人それぞれ。鉄道での時間をどう楽しむかは自分次第である。